

Q

高齢者向け介護予防について

A

介護予防事業の継続実施

松尾 孝彦 議員

質問一 介護予防事業の現状と取り組みについて。

二 介護予防事業の参加率を高めるための対応について。

答弁一(市長) 運動機能向上を強化する事業を実施している。

要支援、要介護状態となるおそれのある高齢者を対象に、こつこつ貯筋体操教室でストレッチ体操やゴムチューブを使った運動など

を行っている。また、参加が困難な場合には訪問指導を実施。

さらに新たな取り組みとして、閉じこもり、認知症、うつ予防のために、ますます元気教室を開催。

創作活動、歌、踊りなどの、心身の活性化のためのプログラムを実施している。

二 介護予防の重要性を広く普及するとともに、高齢者が継続して



こつこつ貯筋体操教室の様子

身近な地域で参加できる教室などを充実させる必要がある。より多くの高齢者が参加できる機会が得られるよう、介護予防事業の運営に協力していただけるボランティアなど人材を確保し、身近な地域での事業の実施を行っていく。

◎その他の質問

一 鶴ヶ島市としての節電と各家庭への節電の啓蒙について

二 LED照明、太陽光発電の活用について

Q

地震、救援、放射能、電力の対応

A

計画的に放射線を測定していく

高田 克彦 議員

質問一 地震発生直後の対応は。

二 燃料不足の対応について。

三 耐震化について。

四 救援支援について。

五 放射能被害について。

六 節電対策を。

答弁一(教育委員長) 防災マニュアルに沿って一人のけがもなく

児童生徒を安全な場所に避難させた。また、教師が保護者とともに児童を引率し、集団下校させた。

二(市長) 公用車の使用を控え、供給業者との連絡を密にし、燃料確保に努めた。

三 改修が必要な昭和56年以前の旧耐震基準による学校体育館などは、耐震改修を2年前倒しの平成



放射線量の測定

25年度までに行う。

四 避難者受入れ施設に老人福祉センターを開放するなど、さまざまな方面から支援に努めている。

五 水道企業団の協力により、小中学校11校、保育所3園の放射線量を測定。一時間あたりの放射線量は0・063から0・090シーベルト。今後、市でも放射線

測定器を購入する。

六 すべての公共施設で節電行動計画を作成するとともに、市広報などあらゆる情報伝達手段を活用し、節電を呼びかけていく。

◎その他の質問 第5次介護保険期間を前にして